

4. 港湾・漁港・海岸・空港

港湾・漁港・海岸の改良・整備

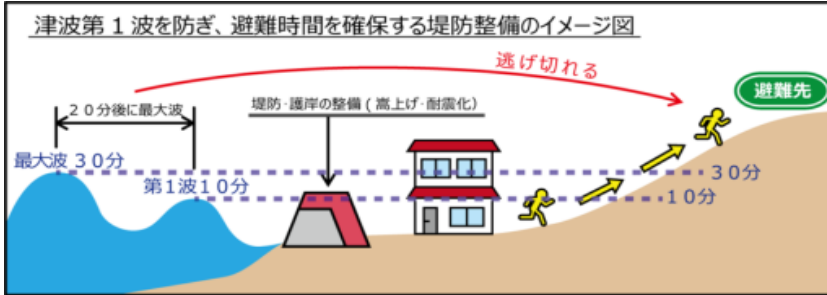
防災・減災、県土の強靱化

【津波から『逃げ切る！』支援対策プログラムの推進】

近い将来、南海トラフにおいて、大地震が発生することが見込まれており、地震発生時の重大な被害が懸念されています。県では、津波から住民の命を救い、死者をゼロとするため、その対策に取り組んでいます。

○東海・東南海・南海3連動地震による津波避難困難地域解消のための対策として、堤防等の高上げ、耐震化等の整備を行っています。

那智勝浦海岸（那智勝浦町）



堤防等の整備による避難時間確保のイメージ



津波避難困難地域解消のための整備
（那智勝浦海岸）

○津波避難困難地域以外の地域でも、津波による被害が想定されることから、経済被害を抑え、早期の復旧・復興につなげるための対策として、防波堤等の改良・整備を行っています。

・港湾

由良港(由良町)、文里港(田辺市)
新宮港(新宮市、那智勝浦町)

・漁港

和歌浦漁港(和歌山市)、箕島漁港(有田市)
塩屋漁港(御坊市)、印南漁港(印南町)
堺漁港(みなべ町)、田辺漁港(田辺市)
有田漁港(串本町)、串本漁港(串本町)



防波堤整備（由良港）



漁港の整備（串本漁港）

【漁業の早期再開復旧の推進】

被災後における漁業活動の早期再開復旧を行うための対策として、主要な岸壁の耐震化等の整備を行っています。

和歌浦漁港(和歌山市)、阿尾漁港(日高町)、印南漁港(印南町)
田辺漁港(田辺市)、周参見漁港(すさみ町)、太地漁港(太地町)



岸壁の耐震化（太地漁港）

【高潮・高波浪対策の推進】

台風などの異常気象による、高潮・高波浪対策として、防波堤の改良や離岸堤の新設、護岸の高上げ等の整備を行っています。

湯浅広港(湯浅町・広川町)
日高港海岸(美浜町)、文里港海岸(田辺市)



津波・波浪ライブカメラ（イメージ）

【津波・波浪ライブカメラの設置】

津波や波浪発生時における沿岸施設の被害状況の確認や、救援物資輸送に必要な耐震強化岸壁等の使用の可否判断等を迅速に行い、初動対応の円滑化を図るため、ライブカメラの設置を行っています。

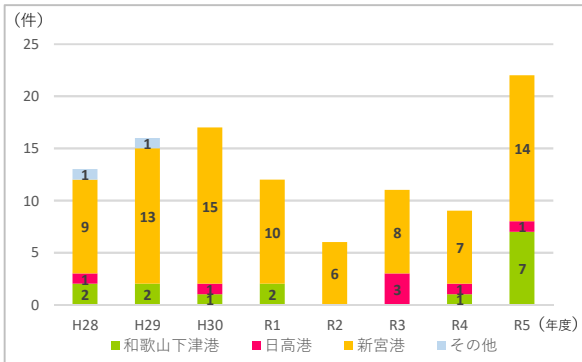
クルーズ客船の寄港促進、泊地の整備

観光産業の強化

【クルーズ客船の寄港促進】

クルーズ客船の寄港は、港だけでなく周辺地域にも経済効果を与えます。

令和2年度は新型コロナウイルス感染症によりクルーズ客船の運航休止が相次いだものの、官民連携の継続的な誘致活動により、令和5年度には、過去最高の22隻が和歌山県内に寄港しました。



クルーズ客船の寄港実績



出港のお見送り(岸壁上)



接岸中の飛鳥Ⅱ

【令和3年11月 新宮港に寄港した飛鳥Ⅱ】

【整備事業】

地域の基幹産業の競争力強化のための水域(泊地)施設の整備を進めています。

和歌山下津港(和歌山市) 泊地の整備

【RORO船の定期就航】

RORO船とは、トラックやシャーシ(荷台)の車両をそのまま船に積み込んで輸送する貨物船です。物流の2024年問題や運転手不足への対応、CO2排出削減の課題解決に資する輸送手段として期待されています。

和歌山下津港には、令和4年10月より毎週土曜日に千葉港へ向かう定期RORO船が就航しています。



RORO船
(和歌山下津港)

熊野白浜リゾート空港(南紀白浜空港)

観光産業の強化

南紀白浜空港は、和歌山県の空の玄関口として、昭和43年に開港しました。民間の能力を活用した効率的なサービスを提供できるよう、平成31年4月から(株)南紀白浜エアポートが運営しています。令和6年1月には「熊野白浜リゾート空港」と愛称を設定し、国内外から数多くの利用客が訪れるよう、誘客促進を図っています。

【空港の利用促進】

熊野白浜リゾート⇄東京羽田線は、朝・昼・夕方の3往復(6便)を定期運航しています。令和5年以降、新しく完成した国際線ターミナルビルを活用して、ベトナムや韓国からの国際チャーター便の運航を誘致しました。

今後も空港のアクセス改善や、空港愛称のPR、国内定期便の増便に向けた需要喚起、国際チャーター便誘致等により、空港の利用促進を図ります。

また、航空機の大型化等に対応し、海外、首都圏等からの更なる観光客等の誘致を図るため、滑走路延伸(2,000m→2,500m)に向けた調査・分析を行います。



国際線ターミナルビル



国際線ターミナルビルを活用した国際チャーター便の受入を開始
(ベトジェットエアの就航 令和5年7月)